

西栗倉村学校運営協議会通信

第1回
令和8年6月29日

本年度第1回の西栗倉村学校運営協議会が、あわくら会館「百森ひろば」で開催されました。新たに2名の方が協議会委員として委嘱され、西栗倉村学校運営協議会委員は14名となりました。会長は岡野真由子さん、副会長は白簾ちえみさんが、引き続き務められます。

河野教育長が開会のあいさつの中で、次のことを述べられました。

- 1、村内で育つ子どもたちの15年間の成長は、学齢によって分断されるものではなく、連続したストーリーとしてとらえています。
- 2、子どもたちは西栗倉村の未来そのものです。保、幼、小、中が共通の目的や理想のもと、子どもたちに「自立」、「主体性」、そしてふるさと西栗倉を愛する気持ちが育つ教育をめざしましょう。
- 3、学校や地域は子どもの成長を担う当事者として、西栗倉村の教育とともに創っていきましょう。



令和8年度西栗倉村学校運営協議会説明【教育委員会】

テーマ：「ふるさとを愛し、地域の発展に貢献できる子どもの育成」（暫定）

子どもたちが地域の未来を担う人材へと将来的に育っていけるよう、学校や地域が一体となってどうあるべきかを、熟議を通して考え、行動していくこととしました。

学校運営協議会は、年間3回の開催を予定し、第2回には中学生を含めた拡大熟議も予定しています。

最終回である第3回では、今年度のまとめとしてテーマや活動の評価をおこない、次年度に向けた改善とテーマ設定について協議、決定する予定です。



研修 学校運営協議会の在り方【津山教育事務所生涯学習班 畝本昭則副参事】

現在はVUCAの時代（変動制・不確実性・複雑性・曖昧性）。つまりこれから先の将来がどうなっていくか、だれも先が読めない、正解はないということです。

西栗倉村の教育大綱では、「西栗倉村の教育への3つの問い」として、大綱の実現者である村民への問いかけが明示されていますが、地域ぐるみで子どもを育てる重要性を表しているのとらえることができます。子どもたちの15年間の育ちを、保育園から中学校へとバトンを渡しながらか支援していくことが重要です。

ビジョンを描く学校運営協議会と活動を展開する地域学校協働本部が、教育コーディネーターを介してしっかりとタッグを組んでいる西栗倉村の取り組みに大きな期待を寄せています。

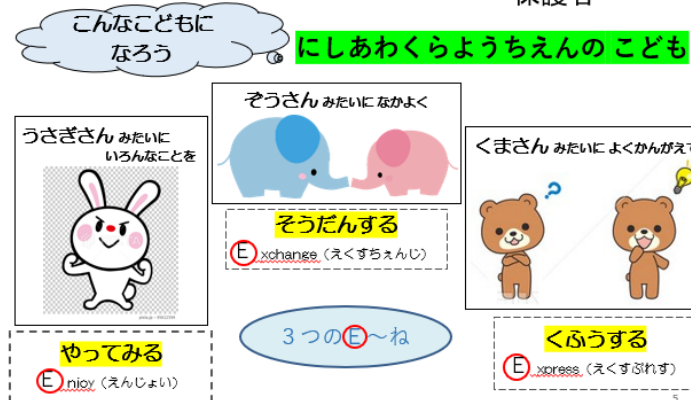


各校園の教育基本方針

【幼稚園】

キーワードは「遊びこむ」：将来にわたって生きる力

昨年度からの取組・・・『3つのE～ね』を子どもたちと共有
保護者



【小学校】

R8 わがことプロジェクト2.0

学びを自分でデザインするという学び方



【中学校】

生徒に大人はどう伴走するか

校内プロジェクトチームを中心とした
研究及び実践

つながるプロジェクト：
発達支持的生徒指導の実践

みずからプロジェクト：
自律・協働・挑戦の力



グループ協議

〈A〉

- ・子どもたち自身が、「村っていい」「村のために何かしたい」と思えたとき、その思いを実現できるよう応援できる環境が大事。
- ・では、その環境とはどんなものだろう。環境づくりのために、どんな取り組みができるのだろう。

〈B〉

- ・テーマにせまる子どもたちに育てたいという、大人たちへの投げかけととらえた。
- ・大人も楽しんで様々なことに挑戦しているすがたを見せることで、一緒に学ぶことができる。

〈C〉

- ・小学校の取り組みについてさらに深めた
- ・学びから新たな疑問が生まれ、探究学習が深まっている。子どもたちに次の疑問や活動を発想できるよう声かけをしている。計画は随時更新する柔軟性が必要。
- ・探究から教科へ学びが移る流れができている。

〈D〉

- ・15歳までに身に付けさせたい力や、そのためにどうしていくかについて、これまで協議してきたはず。テーマは大人になった時のほなしでは。
- ・自立とは、自分で決断できること。そのために、相談したり助けを求めたりすることも重要。

〈E〉

- ・「地域」の定義を西栗倉村に留めず、世界基準でとらえてほしい。
- ・「地域の発展に貢献」について、課題解決にもっていきがちであるが、大人ができていない問題を、子どもたちに押し付けることなく、自由な発想で貢献をとらえてほしい。
- ・15歳の春をゴールにしない。先の姿を想定する必要がある。
- ・フリー参観は期間を設けず、いつでも行けるようにしてほしい。
- ・2回目は生徒だけでなく、教職員の話も聞いてみたい。

